R4 研究授業及び事前・事後検討会 （指導助言：岡山大学学術研究院教育学域 講師 池田匡史 氏）

研究授業事前検討会【9/1（木） 実施】

- 5月に選定した 5 科目（情報Ⅰ・美術Ⅰ・歴史総合・数学Ⅰ・言語文化）の研究授業について、先生方の見学希望を募り、グループに分かれて事前検討を実施しました。どのような授業を構想し、どの明南スキルにアプローチしようとしているかを検討しました。生徒に対して物足りないなと感じる点とそこにアプローチする手立てがどこにあるかを考えていくことが授業デザインの本質であるとの助言をいただきました。

研究授業【10月2週目～11月2週目 実施】

- 上記期間で1週間につき1科目の研究授業を実施しました。特定のクラスのみの授業ではなく、同一の内容を実施する授業についてはどのクラスでも公開し、授業見学の機会を確保しました。

研究授業事後検討会【11/18（金） 実施】

- 事前検討会と同様、各科目のグループに分かれて事後検討会を実施しました。どの明南スキルに最もアプローチしようとした授業だったかを検討しました。公開授業や研究授業を実施する意義や今後どのように明南スキルを育んでいくか、グループ協議を踏まえて示していただき、「思考を深める」に焦点化していくという方向性が定まりました。

○授業者のコメント

・情報Ⅰ（大塚保孝 先生） 単元：情報のデジタル化

研究授業のテーマ・学習活動等：主体的に学習に取り組む態度の評価（試行錯誤し、課題解決に向かう）

① 授業準備や授業実践に関して工夫したところ

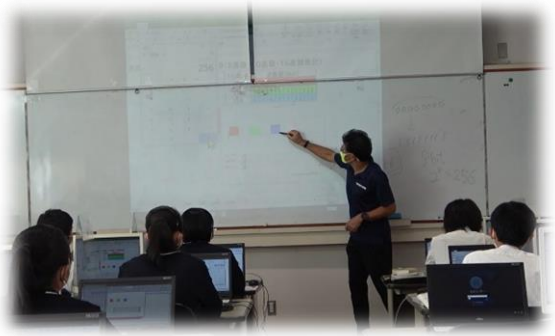
デジタル機器の進歩により、今まで専門的な機器や知識がないとできなかった様々なデジタル表現が簡単に行えるが、その過程はよりブラックボックス化され、わかりにくくなっている。よって、そのブラックボックスの中の仕組みを生徒がどれだけイメージできるかという点に気を付けたつもりなのですが、うまくいったのかどうか自信はありません。今回は画像ということで、普段使っているスマートフォンのカメラ機能が、どのように発展して来たのかを振り返りながら、デジタル化の仕組みを理解させようと思いました。

① 色を表現する仕組みを、コンテンツを用いて、光の 3 原色を調整して 1677 万の組み合わせができることを体験させる。

② 24bit フルカラーの画像の前に白黒 1bit から 2bit・3bit と使える色数が増えることによって、データ量が増えることを画面と計算を連動して体験させる。

③ カメラの内部構造を提示して、光センサーの役割を理解させる

以上の点について少しばかり考えました。



②実践してうまくいったところ（成果、生徒の変化等）

デジタル機器に関心のある生徒は熱心に取り組めたように思いますが、それほど機械の仕組み・原理に興味のない苦手な生徒も、身近なテレビ・カメラの機能として少しは関心をもってくれたのかなと思います。

③実践してさらに改善が必要だと感じたところ

複数のアプリ（電卓機能・エクセルファイル）を同時並行で使用すると生徒によっては作業に手間取ったりするので、普段からそのような実習を他の場面でも用意しておくとよかったと思います。

全体に説明が多くなって、操作をする時間が少なかったり、1 時間でのまとまりがなく中途半端なところで 1 時間が終わってしまったので、もう少し時間配分を考える必要があると思います。

・美術Ⅰ（松岡昭彦 先生） 単元：表現（絵画）

研究授業のテーマ・学習活動等：モチーフ「枯葉」をアクリルガッシュで着彩描写した完成作品を鑑賞し合う

① 授業準備や授業実践に関して工夫したところ

枯葉をモチーフにして、アクリルガッシュ絵の具を使用し描く様子と完成作品を鑑賞する授業の二場面を研究授業にすることで、実技と鑑賞の両方の様子を参観できるように工夫した。また、該当の３クラス全ての授業を６時間公開することで、先生方が鑑賞しやすい時間の状況を作ると共に、クラスによって取り組み方や発表の違いを比較することができるようにした。制作については、タブレットのビデオを使用し、教師が参考に描いている様子を大型テレビに映し、どの様に制作を進めるのかを具体的、視覚的に提示する工夫をした。生徒は毎時間タブレット使用し、作品の経過写真を撮影し保存することで、制作過程の様子を確認することができるようにした。鑑賞の授業において、タブレットを使用して発表する時には発表の手順を示して、タブレットの拡大機能などを使用するなど工夫して発表できるよう指導した。

② 実践してうまくいったところ（成果、生徒の変化等）

制作の手順を実演した画像を見せることで、どのように制作すれば良いのかのポイントがわかり、スムーズに制作を進めることができていた。（映像を前の大型テレビに映すだけでなく各自のタブレットに配信することも今後実施したい。）

発表の手順の例を示すことで、どのように発表すればよいのかをイメージしやすくなっていた。また、タブレットの使用法の例を示すことで、各自工夫して発表することができていた。

制作過程の写真を発表し合うことで、他者の制作手順を知ることができ、制作方法について新しい発見があった。また、自分の作品の変遷を改めて見直すことで、今後どのように取り組めばよいかの反省点が明確になった。

タブレットを使用した授業は、授業の内容に幅ができ、今までの作品評価は、どうしても出来上がった作品だけの評価になることが多かったが、今後は途中段階においての評価もできることが非常に良いと感じた。

③ 実践してさらに改善が必要だと感じたところ

制作において、絵の具を溶く水の量の微妙な調整方法において、具体的な水の分量をもう少しわかりやすく整理して教えた方がいい面もあるように感じた。

各班での発表において、各個人がどのような発表をしていたのかを記録する係をつくり、発表の方法やタブレットの使い方などの反省点を検証する必要があると感じた。

・歴史総合（鈴木祐大 先生 吉岡秀子 先生） 単元：国際協調

研究授業のテーマ・学習活動等：パフォーマンス評価

① 授業準備や授業実践に関して工夫したところ

発声を基本とする言語活動をツールとしてひとつの課題に向かわせることで、アカデミックなコミュニケーションの機会を用意し、筆記テストでは測れない知識の活用力・表現力や、意見をまとめる思考力・判断力、既存の知識を活用しようとする主体性を評価した。ルーブリックを複数用意し、活動そのものの評価を主たる評価材料としながら成果物や振り返りシートの評価も加味するなど、多角的な評価を志向して客観性を担保できるよう努力した。また、待機時間が長いという問題が本パフォーマンステストの瑕瑾として指摘されていたが、待機生徒に相互評価させるシートを準備して待機中の活動の幅を広げることで対策を図った。

中間考査の内容がパフォーマンステストのテーマだったので、それを活用しながら思考力・表現力を伸ばしていくよう、工夫した。

②実践してうまくいったところ（成果、生徒の変化等）

本テストは1学期時点ですでに実践があり、それを踏まえての2度目の実践であった。そのため、本テストに関する生徒側と教員側の共通理解がある程度取れており、スムーズな運営ができた。生徒のパフォーマンス自体も、資料を有効に活用する生徒や、調べた内容を解釈し、自身の言葉に落とし込むことのできた生徒など、より高いレベルで活動する生徒が散見されたことは収穫である。振り返りシートを分析すると、次回パフォーマンステストに向けた対策としてコミュニケーションを伴う学習が挙げられており、一部生徒の中でプラクティカルな学習が志向されている様子が見て取れる。これは筆記テストのみで評価する場合と比較して明らかな相違点であり、一定の成果と考えて良いように思う。

念入りに下調べしていて、内容がかなり深まっていた。ある生徒は、用意していた資料を提示しながら発言していて、生徒の可能性というものも少しみえてきた。

③実践してさらに改善が必要だと感じたところ

一方で、調べた内容や教科書の指定箇所をそのまま読み上げる生徒も多数見られた。これに対しては、ルーブリックの見直し、パフォーマンス準備段階の意識づけ、持ち込み可能ツールの制限など複数の対策が考えられるが、本校生徒の学力や特性を十分に見極めた上で今後適切に対応したい。また評価シートに関して、発表グループの声量や配置の関係で、待機生徒が現在行われているパフォーマンスを十分に視聴することができず、情緒的な評価にとどまってしまった。他者の評価を通して自らの反省に活かすことが相互評価の目的と考えると、この度の評価シートの運用は十分とは言い難い。テスト時のグループ配置などを見直して再度取り組みたいと考えている。

１人１人の時間配分の工夫。長く話をしている生徒がいると、中途半端に話しきれていない生徒がいた。できるだけ自分の言葉で表現させたい。

・数学Ⅰ（笹山瞬 先生） 単元：三角比
研究授業のテーマ・学習活動等：ICT 活用とグループ・ペアでの協働学習

① 授業準備や授業実践に関して工夫したところ

・ICT に置き換えられそうなところはできるだけ置き換えるようにした。
・明南スキルと照らし合わせると、思考するが普段の授業で不十分であるように思ったため、生徒が思考できる時間をたくさん作れるようにした。
・班だけでなくクラス全体で共有できるようにグーグルスライドを用いた。

②実践してうまくいったところ（成果、生徒の変化等）

・意外と盛り上がって驚いた。（普段とても静かなので…）
・三平方の計算ができないと思っていたが、できていた。
・授業後に楽しかったと言っていたらしい。
・生徒中心で学ぶ方が良いと感じた。

③実践してさらに改善が必要だと感じたところ

・班で考えたことを、班員が発表しても良いと思った。
・1回で終わらず、こういった授業を何度もしないといけない。
・ヒントを与えすぎると、生徒の解答が同じようになってしまう。

・言語文化（北野総子 先生　竹内彩乃 先生　橋本美佳 先生　新庄真実 先生） 単元：和歌による心の交流
研究授業のテーマ・学習活動等：詩歌の創作、タブレットを活用した相互評価

① 授業準備や授業実践に関して工夫したところ

・2（3）クラス同時に進度を合わせて授業を行わなければならなかったので、研究授業の時の段取りと打合せを入念に行った。また、グーグルフォームを活用することで結果をすぐ共有できたのもよかったと思う。HR 単位で授業を行うことで、投票されたコメントを集約する作業を行う先生を置けたので、フィードバックが即時行えてよかったと思う。
・前時の短歌創作の際に修辞技法をまとめて復習したことと、過去の先輩の歌を参考資料として配布したことにより、歌を作りやすくする工夫ができたと思う。
・短歌創作の前に伊勢物語の登場人物の心情を想像することで、直接的な表現でなくとも感情が伝わるということ、読み手が想像できるような言葉選びをすることに意識を向けられるように工夫した。
・生徒が詠んだ短歌を修辞法ごとに事前にチェックして、講評するためにパワーポイントを作った。講評の内容はアドバイスを少なめにして、褒めるところを多くした。

②実践してうまくいったところ（成果、生徒の変化等）

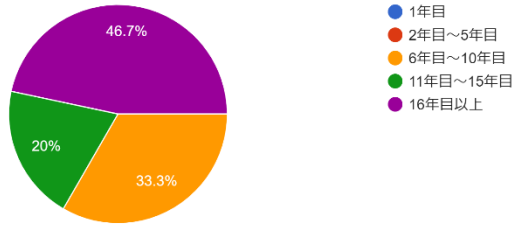
・投票の時間はみんな楽しそうに取り組んでいてよかった。結果発表に関しても興味を持って聞けていた。生徒に書かせた振り返りシートを見てみると、「言葉を知っていればすぐに短歌を作ることができる」「使う言葉も気を付けて作りたい」など、言葉の大切さに気付いた生徒がいて良かったと感じた。振り返りシートを書く時間をしっかりと取ったおかげか、いつも以上に次に向けて工夫したいところがしっかりと考えられているように感じた。
・友達と相談をしたり、黙々と創作したりと、創作の仕方は生徒によってかなり異なったが、誰も投げ出すことなく短歌創作に取り組んでくれたことがよかった。創作された短歌も工夫が凝らされていたが、他の生徒が創作した短歌を読み、コメントをして自分の短歌を振り返るという活動を通して、さらに深く考えられるようになったのではないかと思う。
・投票の際、子どもたちが静かに各自で真剣に読み、選んでいたのが印象的だった。投票結果発表の際、1位の歌や教師がピックアップした歌について、意外と作者が名乗り出てくれて、自分の思いや工夫した点を話してくれたのが嬉しかった。私も、前もって生徒の歌を読んでいたため、それぞれにコメントしたり質問したりすることができた。

③実践してさらに改善が必要だと感じたところ

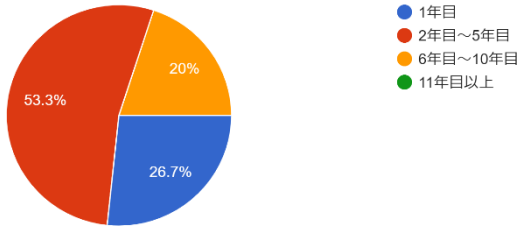
・短歌創作の時間は、短歌を作るのが初めてだったり、自信がなかったりして、積極的に取り組むことができていない生徒がいたので、もう少し前向きな雰囲気を作れるようにしたい。
・過去の生徒が創作した短歌を参考にと紹介したが、掛詞等の修辞技法がうまく成立していないものも紹介してしまったため、混乱や誤解を招いたかもしれない。参考にと提示していても、特にこれは修辞技法も巧みに使えているなどと口頭での補足は加えたが、文字として手元に残っているものを生徒は参考にするということをもっと考慮すべきだったと思う。
・投票フォームが修辞法ごとに最初の出席番号入力から入り直さないといけないのが少し手間であった。投票後のコメントの集約が単純な操作ながら大変であったので良い方法がないか考えたい。
・生徒のコメントを授業中にフィードバックする際のスプレッドシートの操作がうまくできなくて、ICT 機器の使用の練習をしておく必要があると思った。
・事前に授業だけでなくクラスや Google クラスルームで連絡があったにもかかわらず、投稿せず、タブレットも忘れている生徒への対応をどうするか、考えたい。スマホが使えると安易に考えて持ってきていない生徒もいたようだ。

○R4 研究授業及び事前・事後検討会アンケート結果

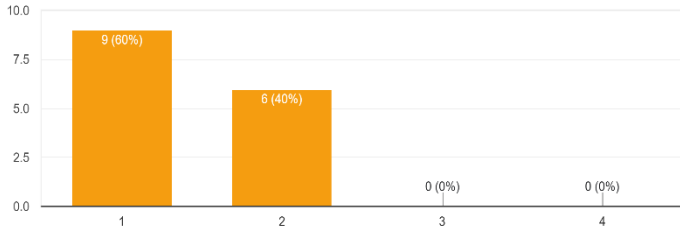
教職経験年数（臨時を含む）について、あてはまるものを1つ選んでください。
15 件の回答



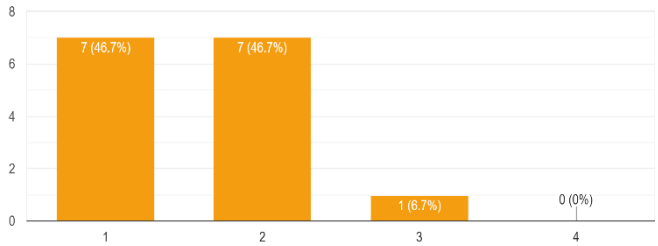
本校勤務年数について、あてはまるものを1つ選んでください。
15 件の回答



研究授業及び事前・事後検討会には意欲的に取り組めましたか。
15 件の回答



研究授業及び事前・事後検討会 を受けて、先生ご...の今後の授業づくりへの意欲は高まりましたか。
15 件の回答



【意見・感想】（一部抜粋）

○全体について

・違う教科の先生方と意見を交わしながら授業について考えるのはとても勉強になり、刺激を受けた。他の研究授業も気軽に見学に行くことができ、事前や事後では短時間であるにも関わらず、グループで活発に意見交換ができたのが非常に良かった。昨年度とは異なり、教員全体で取り組めたように感じる。事後検討会では、目的に向けてぶれずに授業を組み立てること、またそれを生徒の現状に応じて変えていくことの必要性と難しさ、「知識」と「思考」の違いとは？などいろいろと考えが広がった。今後もこうした取り組みを通して、生徒の力を高めていく姿勢を学校全体でつくっていきたい。

○事前検討会について

・事前検討会についてなのですが、検討会の時に指導案が配られたので、授業の内容を理解していただくのに時間がかかってしまい、授業内容について検討していただく時間があまりとれなかったことがすこし残念でした。特に教科外の先生にはご負担だったのではないかと感じました。

○研究授業について

・今回研究授業をさせてもらい、授業について色々と考える良いきっかけになりました。ありがとうございました。研究授業が年に一度とではなく、年に数回やっても良いと思います。色々な先生にやってもらった方が、先生の当事者意識も上がるのではないかと思うので。色々と事前の準備からありがとうございました。

・複数回、授業を見学できる時間があって、すごく見学しに行きやすかったです。研究授業とかに関わらずすべての授業を見学できる雰囲気ができあがればいいなと思いました。今年度、各先生方が、授業内でタブレットやICT機器をどのように使用したかの実践例を年度の最後の方に共有出来たら嬉しいです。

・いままでには気の付かなかった授業の組み立て方や授業の展開を工夫することができ、自分自身いろいろな新しい発見等があったのがよかったです。時間をさいて授業に来ていただいたり、事前・事後検討会でいろいろな意見をいただいたことは貴重な経験で今後に生かすことができ、とても充実していました。

○事後検討会について

・事後検討会は、実際の授業を見ていなければ想像での議論になってしまうので、参加する検討会の授業は、事前に見ておいてもらうアナウンスをもっとしておいた方が、より有意義な議論ができると思いました。折角授業の撮影もして、共有してもらっていたのに、少しもったいなく感じました。

・年に2回検討会を開くのであれば、同じ科目で1学期の授業と検討会の結果をふまえ、2学期にどれくらい改善できたかを検証すればよいのではないかと思う。